

長崎市立小江原中学校 令和6年度学力向上プラン

【学校教育目標】 自ら学び、さわやかで たくましい心身を持つ生徒の育成

【重点努力目標】 ”一人ひとりが主体的に学んでいくための学びの基盤づくり“

【重点目標達成のための実践事項】

【授業規律の確立】

2分前学習などの授業規律を徹底することで、一人一人が安心して学ぶことのできる学習活動の基盤を作る。

【一斉授業からの脱却】

ICTの活用・教え合いや話し合いを取り入れる授業形態の工夫・「書く」ことを意識して取り入れる授業

【「めあて」と「まとめ」の明確化】

「めあて」で授業で身に付けたい力のゴールを示して学習の見通しをも持たせ、「まとめ」で学習の定着を図る。

【個に応じた教育の推進】

通級指導教室との連携を図るなど、必要に応じた授業支援体制を整える。

【学びの習慣化の工夫】

各教科の「学び方」を身に付けさせる。個に応じた学習方法

【キュビナ・Chromebookの活用】

Chromebookの効果的な活用
キュビナの活用

【小中連携】

【国際理解教育の充実】

【キャリア教育の充実】

【不登校生徒への対応】

【学びの場の変更】

【通級指導教室の活用】



実践事項をもとに、各教科の課題を分析し、具体的方策を決め、課題改善のために取り組む。

<目標> 各種学力調査で、全国、県、市の平均を超えることを目指す。

令和6年度 生徒の実態

(全国学力学習状況調査・県学力調査・市学力調査より)

- 国語では、自分の考えを書くことや説明することに課題がある。
- 数学では、まず計算力、基礎的な知識を定着させ学びに向かう力を育みたい。
- 英語では、正確に書くこと、話すことの力をさらに伸ばしたい。
- 個人差が大きいことや学習の定着に課題がある。
- ☆授業における学習規律は全体として大きく向上してきた。
- ☆良くありたい、出来るようになりたい、頑張りたいという気持ちで過ごす生徒が多い。

○各教科の改善のための具体的方策

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに様々な「条件作文」を書かせ、相互評価をさせ、フィードバックする。 ・文節の係り受けを意識した短文作りをさせる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・個人、ペア、グループと 1 時間の授業の中でも意図的に学習形態を変え書く活動、説明する活動、思考する活動に取り組みさせ粘り強く取り組む態度を育む。 ・演習の時間を多くとり、個別学習の時間を確保する。 ・小テスト、キュービナに毎日取り組み、基礎基本の定着と家庭学習の習慣化を図る。
英語	<p>1年・2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動での英会話の後、即興スピーチを行い、ペアで WPM を計測・記録する。 ・上記スピーチで発話した内容を書く活動につなげ、Peer Editing する。 ・帯活動で Model Sentences を視写する時間をとる。 ・自主学習ノートによる単語学習とともに、教員自作の65語程度の読み物教材の読解を通して語彙を増やす。 <p>3年</p> <p>帯学習の工夫</p> <p>(1)個人学習(個別最適な学び)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①長崎県学力調査のリスニング問題や文法問題の類似問題を作成し、生徒が Forms で回答する。 ②日常的・社会的な話題に関する教員自作の Reading 教材を読み、生徒が Forms で回答する。また、WPM を計測・記録することで、短時間で概要を読み取る力を磨く。 <p>(2)ペア学習(協働的な学び)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①弾丸インプット 単語や基本英文を口頭で練習する。 ②Step Up Talking ・Today's Topic(質問形式の今日のお題)について即興で対話する。 ・上記で対話した内容について Speech し合い、WPM を計測・記録する。 ③上記でスピーチした内容を書く。 ④上記の文章をペアで添削したり、フィードバックし合ったりし、正確な英文を書けるようにする。
社会	<p>小テスト、ペア学習による反復練習の取組。</p> <p>基礎・基本の定着のためのキュービナの活用と予習としての活用。</p> <p>生徒の関心を高める魅力ある教材の提示。</p> <p>パフォーマンス課題の設定。</p>
理科	<ol style="list-style-type: none"> ①わかる授業 ・毎時間の最初に前時の復習を 1 問 1 答形式でさせ、基礎基本の定着を図る。 ・デジタル教科書などの画像や動画を用いて、視覚的に理解させるようにする。 ・ワークシートを工夫して、書く力のサポートをする。 ②授業の中で活用する時間を確保する ・キュービナによる小テストや単元テスト ・クロムブックでのレポート作成
保体	<ol style="list-style-type: none"> ①ワークシートやクロムブックを使用し、視覚的に情報を習得できるようにする。 ②まとめとして確認問題に取り組みさせる。 ③ペア・グループ活動の充実、授業規律の再確認。 ④準備運動のランニング方法の改善。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・教え合いや話し合いの時間を増やし、お互いに協力して学ぶ雰囲気を作る。 ・期末試験を行わない分、単元ごとに小テストを行ったり、Chromebook で学んだことをまとめたりする活動を取り入れて学びの定着を図る。
美術	<p>【授業規律の確立】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師が2分前学習を行う体制を整える。(早く美術室に行き、生徒を迎える。2分前学習の内容を板書し、することを明確にする。遅く来ることを容認しない。) 2. 時間を忘れて集中できるような教材、授業内の時間設定を研究する。(ICT の活用なども。) <p>【一斉授業からの脱却】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでは個人制作を中心にしてきたが、今後はグループ活動を取り入れ、お互いに学び合う機会を作る。 2. ICT を活用し、アイデアを出しやすいツールを作る。昼休みなどを活用し、個別指導を行う。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」の明確化。 ・「まとめ」のルール設定。 ・「書く」「聞く」「話し合う」等の作業は同時に行わない。 ・説明は短く、ポイントを絞って的確に伝える。 ・机間指導で個別指導を行う。 ・作業時間はタイマーで知らせる。 ・作業等はペアで行い、協力して課題を解決させることで、作業の効率化と学習内容の定着を図る。 ・授業のルールや授業前の準備、片付け等時間配分を示し、授業規律を確立する。 ・生徒が知っている知識等を発表させたり、意見交換させたりして内容を深めていく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の改善点に気づかせることで「何のために学ぶのか」を理解した上で学習をスタートする。 ・視覚、聴覚どちらからも情報を得られるよう、口頭の指示だけでなく、板書でも提示する。 ・指示をなるべく少なく、簡潔に行う。 ・ワークの記入や被服実習政策などは時間を多く設定しておく。 ・「生活の課題と実践」において、授業での学びを自分ごととして捉えられるよう、事例を多く提示する。